諮問にこたえて
あすの岩室村のために
岩室村総合開発審議会

その二 産業の振興

農業の振興

日本の代表的穀倉地帯の一角を占めて、食糧供給に大きな役割を果してきた、岩室村の農業も、社会経済の発展に伴う、諸情勢の変化により、重大な転換期に立たされている。

本村の農業は、水稲を基幹として、そ菜・果樹・畜産などが、自給的副業的に結合した形で成り立っている米作偏重農業である。

今後の方向の基調としては、社会経済の状況をふまえ、国・県農政の動向を見きわめながら、本村行政の充実をはかると共に、農家自身の工夫と努力によって、他産業に劣らない所得を上げるために、経営の零細性を打破し、生産性の向上をめざすことであろう。

自立経営農家を中核とした、協業経営を助長し、生産組織の育成を促進して、市場競争を勝ち抜く実力を備えた、『企業としての農業』を確立しなければならない。

林業の振興

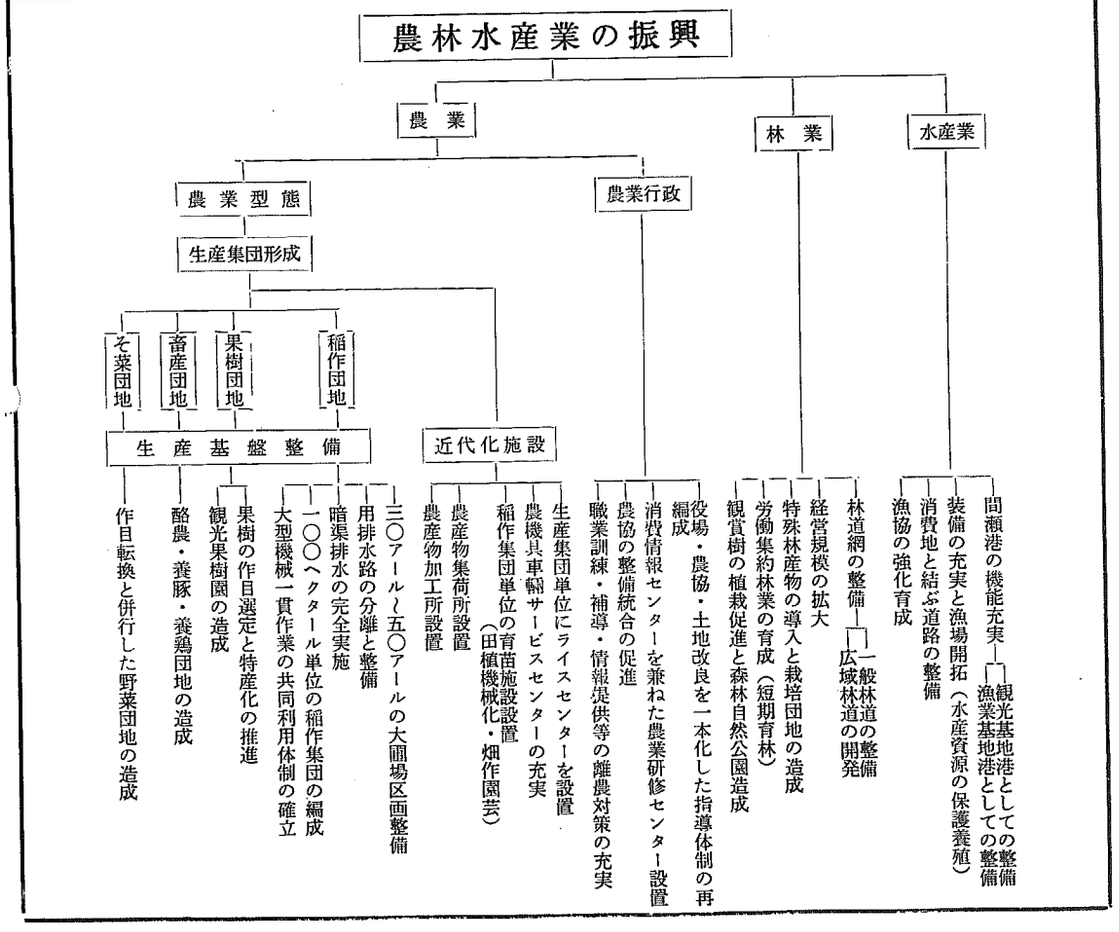
木材の需用が増大しているにもかかわらず、育林は長期にわたるため、資本の回転率が低く、造林事業は衰退の一途を辿ってきた。

今後は、林道開発を主軸として、機械力・省力技術の導入を促進して、育林期間の短縮をはかり、治山治水の役割を果しながら、観光資源としても、自然美豊かな、森林公園をめざすなど、巾広い林業振興策を構想する。

水産業の振興

間瀬港を、沿岸漁業の基地として、充分その機能を発揮できるように、整備を進めると共に、魚族資源の保護養殖をはかることにより、大きく減少してしまった漁業従事者の所得安定をめざす。

また、佐渡を含めて、ますます大型化する広域観光の、門戸港としての地位を確保することを構想する。



村主脳北海道を訪問
釧路市で村政懇談会
懇親会には故郷の唄もとび出す

▲釧路地区村政懇談会……北海道からもナマの声が聞えてくる

北洋漁業に問瀬漁師ありと、勇名を轟かせている郷土出身者を、現地に慰問して、いっそうのご活躍を期待しようと、横山村長、本間議長はじめ、議会議員など一行十七名が、去る七月十一日、北海道釧路市を訪問しました。

一行は、釧路市に到着するや直ちに会場にのぞみ、待ちかまえた郷土出身者と感激の対面をしました。

集まられた方は、新潟県人会長　市橋長平さん、同副会長　於島秀作さん、同役員　五十嵐一雄さんなど三十数名、

午後四時からはじまった会合は、第一部、慰問の会、第二部、釧路地区村政懇談会、第三部懇親会と進行するにつれて、なつかしさ、楽しさは最高潮に達し、思わず時の過ぎるのを忘れてしまうのでしたが、午後八時、お互いの健康と活躍を誓い合って散会しました。

次に、そのうれしい模様のあらましをご紹介いたしましょう。

第一部　慰問の会
・開会のことば
　大越議会事務局長
・両方の出席者紹介
　篠原議会運営委員長
・挨拶と激励
　横山村長
　本間議長
　山本副議長
　（間瀬議員代表）
・慰問品贈呈
・謝辞
　代表　市橋県人会長
・閉会のことば
　堀越収入役

第二部　村政懇談会
・発言された主な事項
①広報いわむろの送付を感謝する。
　全員に送付願えないか
②弥彦山スカイラインの近況について
③間瀬サーキットのこと
④間瀬への県道の改修状況について
⑤間瀬入口附近のバイパスのことについて
⑥海岸道路の整備のことについて
⑦間瀬水道の整備について

・横山村長から
それぞれについて、現況と今後の見通しを説明、村をあげて努力していることの理解を求め、あわせて給与支払報告書の提出に、ご協力願いたい旨要請がなされました。

現地の皆さんのいっそうのご活躍を願うと共に、末永いご健康を、心からお祈りすると誠意をこめて結ばれたのでした。

第三部　懇親会

ささやかながら、心のこもる懇親の宴。

やがて宴たけなわとなれば、つぎつぎに披露される自慢ののど。岩室甚句、佐渡おけさと、潮さびた渋い声が続く、手拍手はいよいよ高まり、ふるさとを偲んで盆唄を歌う頻に、思わず伝う涙の一節……。

はるか北海の地にきく郷土の歌は、誇らしくもあり、かなしくもあり、切々と心を打つものがありました。

新潟県人会の、望郷の念をこめた正調佐渡おけさ、最後を飾ったのは、若い船長さんたちの、勇壮な北海盆唄でした。

満場拍手のうちに〝うたげ〟は閉じ、折からの雨の中を、「お元気で」「お達者で」と、呼びかけながらそれぞれの家路へと散会していきました。

◇　◇　◇　◇

釧路市役所を訪問

翌、七月十二日には、釧路市役所を訪れ、市議会議長、浅川正敏氏（長岡市出身）と面接して、市長宛の挨拶状を託し、岩室村出身者が多数釧路市にお世話になっていることを感謝し、今後いっそうのご支援をお願いしました。

総合開発企画審議会
村行政の現況を勉強

(1) 営農改革の指針案
(2) 道路整備の推進案
(3) 広域的大衆観光の確立案

これは、本年四月発足した、岩室村総合開発企画審議会（田中四郎会長）に対して、横山村長から出された諮問事項です。

三大問題の諮問を受けた審議会では、毎月の定例会議、臨時会などを積み重ねて、真剣な審議が開始されました。

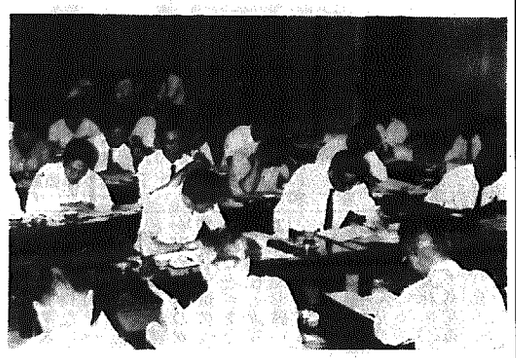
前二年間で答申された、岩室村総合開発のビジョン（基本構想）を土台にしながら、近い将来に実現可能の、更に具体的な答申書を提出するためには、先ずもって現状の再確認が必要であるということで、「村行政の現況を知るための勉強会」が開かれました。

勉強会は、役場の各課長が講師（説明役）となり、岩室村の行政について、その現状と問題点を分析するという内容で、会場には、社会の雑音から遠ざかった群馬県の山奥、宝川の一軒宿が選ばれました。

七月四日（土）午後二時到着、二時半から七時半まで各課長の説明、翌五日（日）午前八時半から十一時まで質疑応答、十一時十五分には出発という強行日程のなかで、ねじりはち巻の猛勉強ぶりでした。

この勉強をもって、一応の土台固めを終えた審議会は、年度内には中間報告を発表することをメドに、実質審議に入りました。

立派な答申がなされるよう、委員諸氏の健斗を期待すると同時に、村民各位のご声援をお願いします。


▲猛勉強にハッスルする総会開発企画審議会の委員

無理するな、つかれは水の事故のもと。

夏の交通事故防止運動実施中……世界の願い交通安全。